

JA自己改革推進レポートについて

令和元年5月24日
JA鳥取県中央会

1. 「農協改革に関するアンケート調査」について（農林水産省）

- (1) 総合的な監督指針に基づく、JAならびに認定農業者等を対象とした「農協改革に関するアンケート調査」が実施され、JAのとりまとめ期日は6月10日となっている。本調査は今年度で4回目の実施で、調査結果の公表は8~9月頃の見通し。
- (2) 調査内容について、担い手農業者等向けの調査では認定農業者等の評価が適正に反映されるよう設問が改善されている。総合農協向けの調査では農産物販売事業・生産資材購買事業それぞれについて、下記の調査項目が新たに追加されている。

- ① 農業者の所得向上に向けて開始・強化した具体的取り組み内容
- ② ①の成果の組合員への開示方法 等について

2. JA自己改革実践状況

(1) JA鳥取いなばの取り組み

① パッキング事業を開始

JA鳥取いなば営農部は4月1日、農産物直売所への出荷を手助けするため「アタック888パッキング事業」を始めた。栽培はしているけれど高齢化や人手不足などで出荷作業が難しいなどの問題を解決するため、同JAが生産者に代わって袋詰めし、直売所へ出荷する事業。出荷量の増加を促し、JA自己改革の目的の一つである「農業者の所得増大」に取り組む。



② 岩美支店が小学生と梨の交配作業体験

JA鳥取いなば岩美支店は4月18日、町立岩美南小学校の3年生児童を対象に二十世紀梨の交配作業体験を行った。支店行動計画の一環で、交配作業、袋掛け、収穫を行う食農教育。体験学習では、JA営農指導員が梨の栽培手順や交配作業の大切さなどを説明。児童と先生と一緒に学び、農業の知識や興味を深めてもらった。



③ フレッシュミズ親子会で苗の定植

J A鳥取いなばフレッシュミズ部会福部支部は4月20日、野菜苗の植付け講習会を福部支店駐車場で開いた。会員同士の交流と食農教育が目的。野菜の植付けや栽培、収穫を体験してもらうことで、食と農の大切さを親子で楽しみながら学んだ。



④ 八東支店が清掃活動に参加

八頭町で4月20日、「八東川クリーンアップ大作戦」が開催された。J A八東支店職員も参加し、3会場で学生や役場職員、各企業団体など約350人が集まり、八東川河川敷の空き瓶や空き缶、ペットボトル、ビニール類などを拾い集めた。予想以上のゴミが集められ、清掃の成果が出た。今後も活動に参加し、八東川の清掃に協力していく。



(2) J A鳥取中央の取り組み

① テレビ会議の取り組みを開始

J A自己改革と働き方改革の趣旨に基づき、5月からJ A鳥取中央管内の各支所をつないでテレビ会議の取り組みを開始した。

管理職不在時間の短縮や、開催場所への移動時間を短縮することで移動コストの低減につなげるとともに、会議内容の充実を図っていくことが狙いである。

カメラは12支所、4営農センターに1台ずつ、本所に4台の計20台を設置。今回のテレビ会議は、複合渉外担当者による「エリアリーダー会議」で12支所と本所の13か所をつなぎ、手元のタブレットを使いながらペーパーレスで会議を行った。参加した職員からは「移動することなく伝えたいことがタイムリーに伝えることができた。様々な面から期待されていることも含め、テレビ会議の可能性を期待したい」と話す。今後も様々な会議に応用していきながら、職員が一層働きやすい環境づくりの構築に努める。



② Aコープトピア店にて家族の似顔絵を展示

J A鳥取中央琴浦管内の保育園などを対象に募集を行った家族の似顔絵を5月よりAコープトピア店にて展示。トピア店では45枚の応募があり、展示を見に来られた来店者にも大好評であった。今後も、地域の未来及び地域の宝である子どもの未来に貢献することを目的に、J Aの社会的役割を發揮したい。

③ 初の「JA中央サミット」開催 【中四国5 J Aが連携】

J A名に「中央」と付く中四国の5 J Aが集まる初の「J A中央サミット」が5月17日、J A広島中央本店で開催された。

このサミットはJ A鳥取中央、愛媛県のJ Aえひめ中央、広島県のJ A佐伯中央、J A広島中央、旧J A山口中央が統合して4月に発足したJ A山口県で構成。

サミットでは、農産物の相互販売や販売促進活動などで支援する産地間連携や、人事交流を通じて農業振興、地域活性化につなげ、J A自己改革の実現に向け取り組むことを申し合わせた。また、2018年7月の西日本豪雨を踏まえ、災害時の物資提供や、職員派遣などの人的支援で迅速に支援できる体制づくりについても確認。次回サミットで、事業連携協定と災害時支援協定を結ぶ調印式を計画する。

(3) J A鳥取西部の取り組み

① 女性会対話集会を開催

J A鳥取西部は米子市の本所で5月8日、J A常勤役員、同J A子会社役員と女性会役員やフレッシュミズ会長、組織代表理事との対話集会を開いた。

集会には、同J Aの谷本晴美組合長や同J A女性会の廣戸妙子会長ら28人が出席。「J A自己改革」「仲間づくり」「J Aへの参画」の3項目をテーマにグループで分散討議を実施し、女性会員の獲得やJ Aへの要望など女性会組織と地域の活性化に繋げる様々な意見が交わされた。

女性会の廣戸会長は「前向きな意見で活発な議論ができ、有意義な集会となった。今後も新規会員の獲得に繋がる女性会の魅力を地域に伝える楽しい活動を積極的に取り組んでいきたい」と話した。

谷本晴美組合長は「当J Aとしても今回出てきた意見を吟味・検討し、可能なことについてはしっかりと実施していきたい。農産物加工所きらめきはうすを活用し地元の特産物や地域の旬の美味しい物を使った地産地消の拡大や加工品の開発や販売などにもぜひ繋げていただきたい」と話した。



② 「親子ふれあい赤ちゃんハイハイレース」を開催

共済部は5月11日、米子市米原のユウベルプラザグラン米子で「親子ふれあい赤ちゃんハイハイレース」(4回目)をJ A共済地域貢献活動とJ A自己改革の一環として開催し、赤ちゃんとその保護者33組が参加した。

この活動は、J Aをまだよく知らない、若い世代へJ A・J A共済を知っていただき、将来に向けての事業基盤を広げることを目的とし、今後も継続して開催する予定。

会場内は笑い声が響き、参加者はJ Aを身近に感じ、そして親子の絆を深めるイベントとなった。



(4) J A全農とっりのJ A自己改革の実践

① 総合事業を活かした活動の展開 全農杯全日本卓球選手権大会鳥取県大会

5月6日、鳥取県立倉吉体育文化会館にて「全農杯全日本卓球選手権大会（ホープス・カブ・バンビの部）鳥取県予選会を開催。子どもたちの健やかな心身の成長を願い、ニッポンの食を通じて未来の夢を応援する目的で2013年から全農が特別協賛している。

大会当日は、鳥取県内から182名の小学生選手が集まり、ホープス・カブ・バンビの3階級で熱戦を繰り広げた。上位入賞の子どもたちは、7月26日～28日に神戸市で開催される全国大会に出場する予定である。



② 選ばれる鳥取県ブランドの展開 青果物取引懇談会を開催

5月14日、ホテルモナーク鳥取にて「令和元年度青果物取引懇談会」を開催。県内の生産者をはじめ、県・JA、関西を中心とした市場関係者ら約210名が参加し令和元年度の出荷販売計画を決定した。（野菜：84億6,700万円・果実：70億5,400万円）

指定会社を代表して大果大阪青果株式会社 植田会長より「生産者の夢や思いを届けられるよう、鳥取県青果物の販売に尽力する」と力強いお言葉をいただき、令和元年度の青果物販売のスタートをきった。



(5) 農業メインバンク機能強化にかかる実績検討会開催（JA鳥取信連）

農業メインバンク機能強化にかかる実績検討会を各JAと開催し、平成30年度の振り返りと新年度の取り組みについて協議した。

新年度の取り組みについては、平成30年度に引続きメイン強化先等への訪問活動に、以下のとおり取り組むこととした。

- ① 営農部門と信用部門の同行訪問を基本とし、1先あたり年2回以上を目標にメイン強化先を訪問し、現状・需要等をヒヤリングする。
- ② 金利・保証料ゼロの農業近代化資金など農業資金にかかる施策・取り組みの情報提供を行う。
- ③ 需資のある農業者へは適時での相談対応を行い、本・支所(店)間およびJA・信連間で連携を図り融資実行に向けてフォローアップを行う。
- ④ 「メイン強化先管理簿」は支所(店)毎で管理し本所(店)等と情報の共有化を図る。
- ⑤ メイン強化先リストの洗い替えを6月末までに行う。

また、本年度から開始する「JAバンク鳥取中期戦略」に基づく新たな取り組みとして、以下の2点について確認した。

- ① 農業者以外にも、生産部会、市町村、普及所等への訪問を強化し、系統内外経路による農業融資の需資情報獲得の間口拡大を図る。
- ② ビジネスマッチングの取り組みとして、農林中金が実施する会議に信連が参画し、農業者およびJAへ販路拡大機会の提供に努める。

今後も、営農部門と信用部門の双方が連携し、メイン強化先を中心に農業者をバックアップすることで農業・地域の成長支援を行っていく。

(6) JA共済の地域貢献活動の取り組み実績（JA共済連鳥取）

※別添資料の通り

令和元年度 J A 共済地域・農業活性化事業費を活用した 地域貢献活動の取組み

農協改革の節目を踏まえ、第28回 J A 全国大会においても掲げられた自己改革の実践継続に向け、共済事業では令和元年度からの J A 共済3か年計画における重点取組み事項の一つとして、「新たな J A ファンづくりに向けた農業・地域に貢献する取組みの強化」を掲げ、地域・農業活性化積立金を引続き活用し、J A・連合会による地域貢献活動・地域農業振興の取組みを実施します。

令和元年度の取組みについては、J A が創意工夫のもと実施する地域・農業活性化施策の取組み支援を目的とした「J A 共済 地域・農業活性化促進助成金」の交付による J A 独自施策（J A 鳥取いなば36施策、J A 鳥取中央39施策、J A 鳥取西部54施策）を始め、県本部が実施主体となる県域統一施策について、全11施策を展開・実施していきます。（県域統一施策につきましては、今後、実施状況を随時報告予定です。）

【令和元年度 県域統一施策の概要】

県域統一施策	施策概要	実施時期 (予定)
① J A へ交通安全指導 (普及) 車寄贈	県下3 J A に対して、交通安全指導車を寄贈	随時
② J A 公用車ドライブ レコーダー寄贈	県下3 J A に対して、J A 公用車用ドライブ レコーダーを寄贈	随時
③ 県への交通安全資材の寄贈	鳥取県交通安全対策協議会に対して、交通事故未然 防止資材を寄贈	秋の交通安全週 間に向けて調整
④ 実業高校への実習用機械等 の寄贈(★)	食・健康を中心とした生活文化を学習する県内の実 業高校に対して、実習関連機器・機材を寄贈	秋までに調整
⑤ J A へ子育て支援等にかか る活動資材等の提供(★)	乳幼児・子育て世代(妊婦含む)に対し、市町村・ 各 J A 支所(店)と連携した育成支援資材等を提供	随時
⑥ 県域書道・ポスター コンクール	県下小中学校児童・生徒の応募作品コンクール	10月審査会、 12月表彰式
⑦ J A 共済むてきカップ 学童軟式野球大会	県下3 J A 推薦の8チームによる県大会	8月
⑧ 地域貢献活動のメディア P R	防災、交通安全、くらしを支える地域貢献活動にか かる地方新聞、雑誌、テレビ等のメディア P R	随時
⑨ ソーシャルロック設置	県下 J A (J A からの申請による)	随時
⑩ 直売所イベント協賛	食のみやこ鳥取が主催する農産物フェアへの協賛	8月
⑪ 地産地消メニュー共催	J A 共済保養施設(羽衣、ホテルモナーク鳥取)が 提供する地産地消メニューへの協賛	通年

(★)・・・令和元年度からの新規施策(その他は継続)